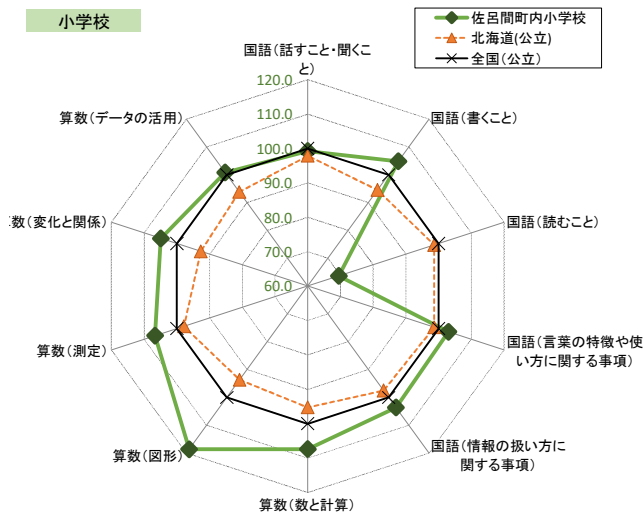


○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校

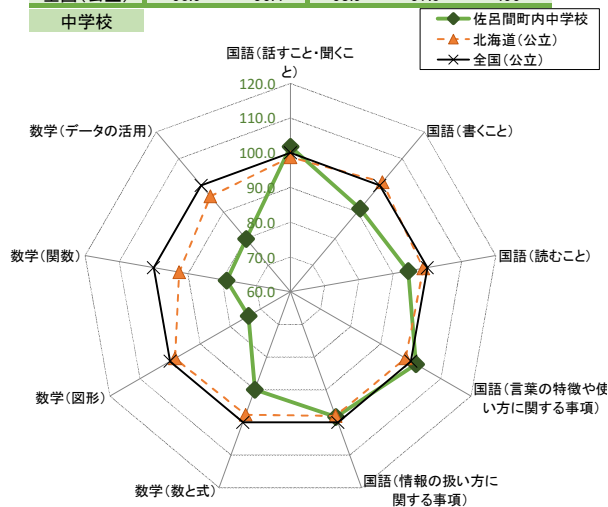


【平均正答率・平均IRTスコア】

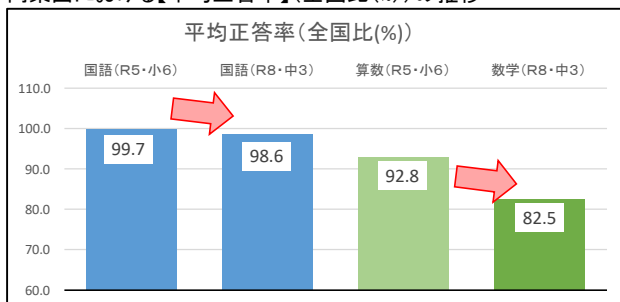
※中学校英語は4技能(聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと)の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
佐呂間町	59	60	63	47	448
北海道(公立)	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499

中学校

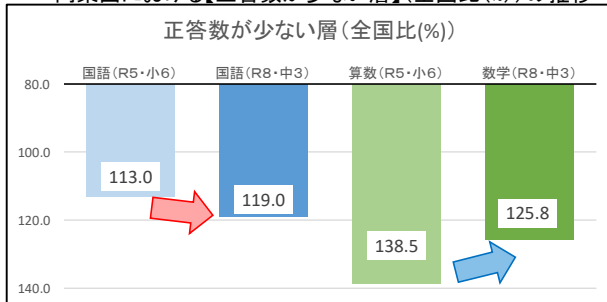


同集団における【平均正答率】(全国比(%))の推移



※全国の平均正答率を100(%)として、本町の平均正答率との全国比を算出

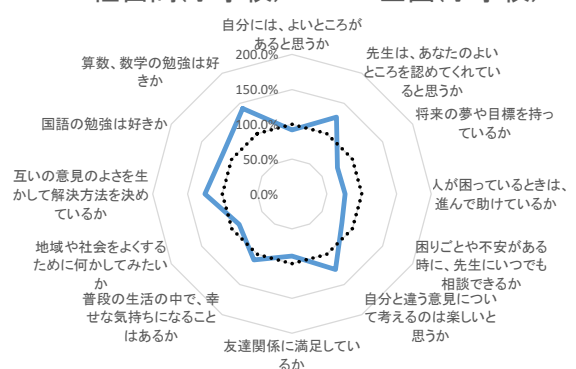
同集団における【正答数が少ない層】(全国比(%))の推移



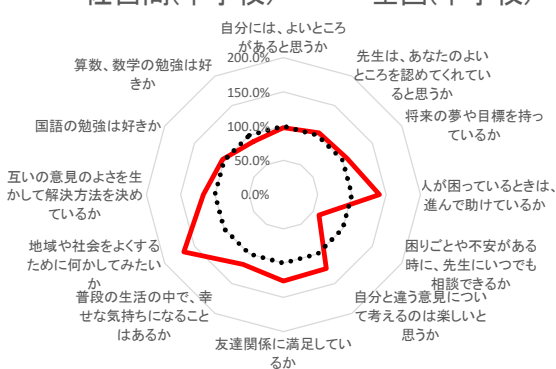
※本町では、全国の四位四分位に当てはまる正答数の層を「正答数が少ない層」と位置付けています。

◆WB（ウェルビーイング）に関連する質問項目の全国平均との比較

— 佐呂間(小学校) …… 全国(小学校)



— 佐呂間(中学校) …… 全国(中学校)



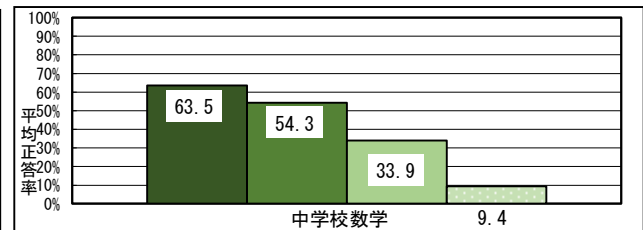
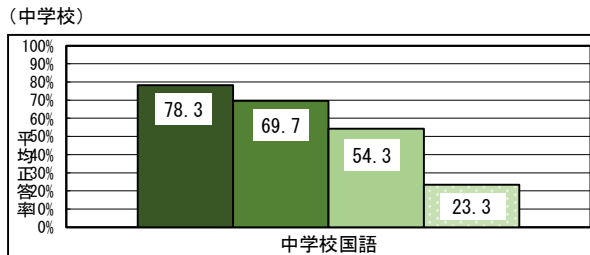
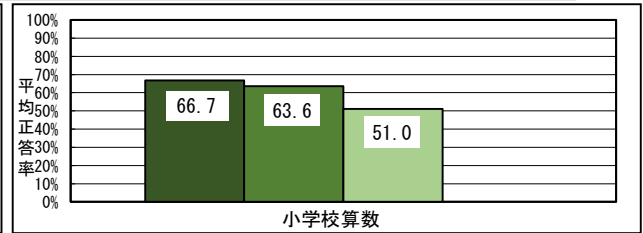
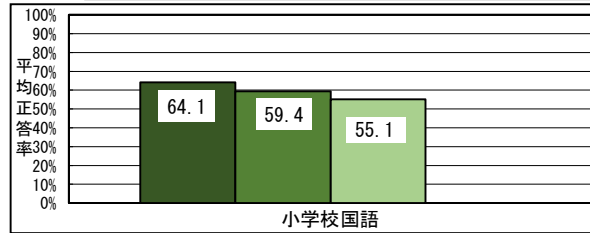
【上記の結果と考えられる要因分析】

- ・教科に関する調査では、小学校算数で平均正答率が全国を上回るとともに、小学校及び中学校の国語で、全国平均に迫る平均正答率となった。中学校数学においても、「正答数が少ない層」の割合が、同集団の小6のときに比べ、少なくなっていることから、小中一貫教育による学力の底上げが推進されたと考えられる。
- ・本町では、各種施策を通してウェルビーイングの向上に取り組んでいる。ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じている。
- ・児童生徒質問調査では、ウェルビーイングに関連する質問項目において、小学校、中学校ともに、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答した児童生徒が全国平均を上回る結果となった。これは、佐呂間町小中一貫教育の重点教育目標「自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける『さろまっ子』の育成」の具現化に向けた各学校における取組の成果であると考えられる。

【クロス集計】「自分の考えが伝わるよう、工夫して発表していたか」×「各教科の正答率」

○児童生徒質問調査「5年生(1・2年生)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

(小学校) 1. 発表していた 2. どちらかといえば発表していた 3. どちらかといえば発表していなかった 4. 発表していなかった



○ 調査結果の分析

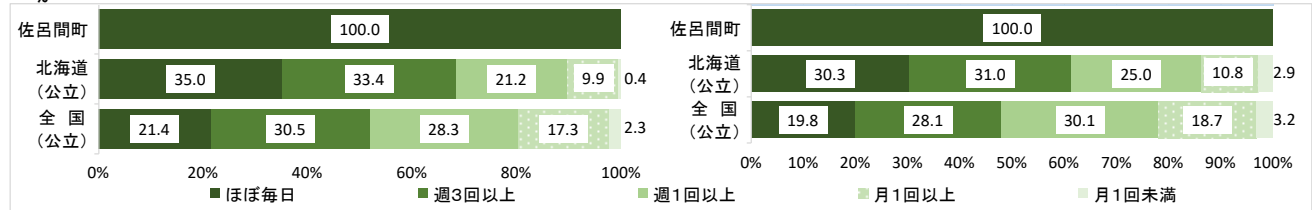
- 児童生徒質問調査「5年生(1・2年生)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問項目と各教科の平均正答率の関係には、相関が見られた。
- 本町では、小中共通の研修テーマを、「『書く・対話する・つなぐ』で深まる学びのデザイン」と設定し、授業改善に取り組んでいる。この関係関係からも、児童生徒が思考を可視化しながら言葉で伝え合う学習活動の中で、自分の思いや考えがうまく伝わるように論理的に説明するなど、「言葉で伝え合う」深い学びの実現を目指した授業改善の取組を、今後も継続して行っていく必要があるといえる。

○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

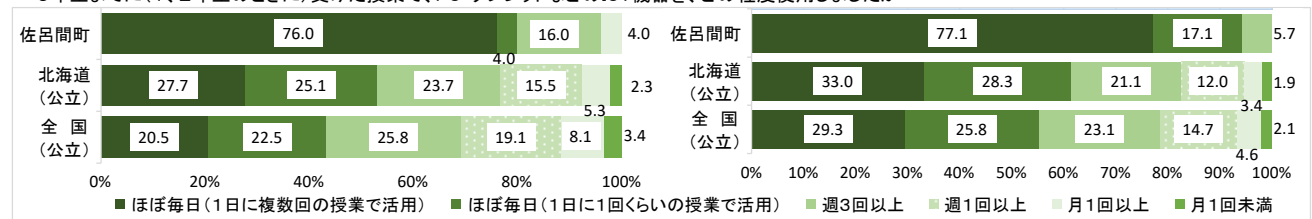
児童(生徒)が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

<児童生徒質問>

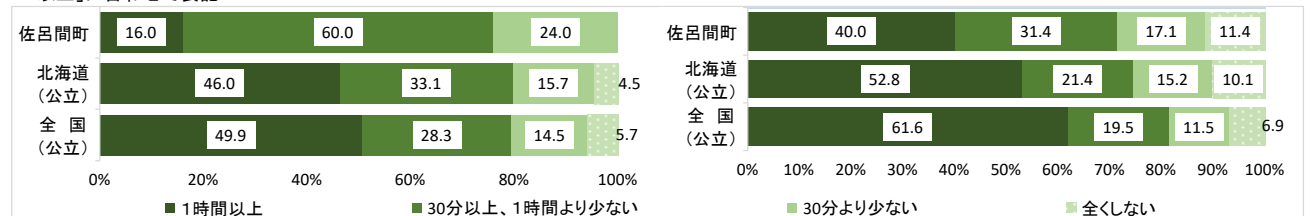
5年生までに(1・2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



小学校

<児童生徒質問>

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)※「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」を、すべて「1時間以上」に合わせて表記



○ 調査結果の分析

- 各学校の授業において、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、小学校及び中学校ともに、「5年生までに(1・2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日(1日に複数回の授業で活用)使用した」と回答した児童生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 小学校及び中学校ともに、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強していると回答した児童生徒の割合が、全国及び全道を下回っていることから、デジタル学習教材の活用を含めた家庭学習習慣の定着に向けた、さらなる取組の充実が必要がある。

○ 佐呂間町の方策

- 「書く・対話する・つなぐ」学習活動を軸とした、「言葉で伝え合う」深い学びの実現を目指した授業改善を、小中一貫して推進する。
- 確かな学力の育成や家庭学習習慣の定着を図るため、生成AIの活用も含めた、さらなる教育用ICT機器の利活用を推進する。